

令和6年度 上宮学園中学校・上宮高等学校 学校計画と学校評価

1 建学の精神

本学園は浄土宗を母体とし、法然上人の仏教精神を教育の根底におく学校である。知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」は、中学生・高校生として生徒一人一人が、人間としてのあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と思いを持ち、理想を求めて主体的に行動することを説いている。

また、学順「一に掃除・二に勤行・三に学問」とは、校訓を実現させるための具体的な行動を示している。掃除とは文字通り身の環境美化を意図するとともに、学ぶ心の準備を意味する。勤行とは勤勉実行を意味する。それは一生を通して求められる生活の行動指針であり、学校生活では学業や課外活動にも規範意識を持って精進努力することであり、社会人となれば強い勤労意欲を持つことである。学問は勤行から得られる知識と健康な心身を土台として、未知への探求心や自らの疑問を解決する能力としての智慧を養うことである。すなわち、先ず心を清めて素直な心がけを第一とし、次に己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずと身に備わり、その真価を発揮できることを示している

2 教育目標（目指す学校像）

- ① 建学の精神を可視化した「上宮ルーブリック」を更に進化させ、「キャリア・パスポート」において日々の成長を可視化し、心の教育を実践すると同時に学力向上にむけて主体的に取り組ませる。
- ② 中学生には、基本的な生活習慣と学習習慣を定着させるとともに、生徒一人ひとりを大切に、日々の授業はもとより、様々な行事を通して個性・独自性を育て、「人間力」の礎を作る。
- ③ 高校生には、生徒が自主的・計画的・継続的に学習を進め、大学進学等に必要な学力の養成と進路学習に重点を置くとともに、「探求的」な授業を活用し、主体性を養い、将来自分が進むべき道を創造させる。
- ④ 教員は生徒に寄り添い、その能力、適性を伸ばして、進路の選択を支援しつつ、教師自身が日々研鑽し、指導力・専門的な知識の向上に努める。

3 中期的目標

- I 建学の精神に基づいた人材を育成する
- II 生徒の学力・進学実績の向上を目指す
- III 生徒の学校生活の充実と教育環境の発展を目指す
- IV 生徒募集事業と広報活動の戦略を立案し、志願者の質の向上と人数確保を図る
- V 健全かつ安定的な財務・経営を目指す

4 中期的目標に基づく、学校の本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

(A：目標が「達成できた」、 B：「7割以上が達成できた」、 C：「4割以上が達成できた」、 D：「ほぼ達成できなかった」)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析
I	(1) 宗教情操教育による人間性の涵養	(1)①宗教科を中心に授業を通して宗教作法（合掌・黙想・焼香）を身につけさせる ②宗教行事（御忌式など）を通じて宗教情操教育を身につけさせる	(1)①授業担当者による点検 ②生徒への振り返りアンケートの実施	A 授業でも真剣に取り組む姿勢が見られた A 行事ごとで主体的に焼香する生徒が増えてきた
	(2) 「キャリア・パスポート」(冊子)の活用(中1・高1)	(2)①新入生への説明会の実施 ②キャリア・パスポート実践の確認 ③キャリア・パスポートに「関する職員会の開催(教員理解・改良など) ④探求授業と融合させる	(2)①説明会の実施 ②職員会での説明 ③担任への提出状況の確認 ④探求授業項目での冊子完成の確認	C (2)①②③十分な説明が出来なかったため、実施の足並みが揃わなかった。 C ④記入欄、記入の仕方に工夫の必要性を感じた。
	(3) スクール・ポリシーの運用	(3) HP等での告知	(3) 教職員及び保護者、生徒への発信	B 一定の理解は得られたと思う。

<p>II</p>	<p>(1)教育システムの改良 (2)教育力の向上 (3)探求授業の充実に向けて研究を進め、校内の体制を整備 (4) 英語教育の充実 (5)中学生の学力向上への取り組み (6)放課後の学習活動の充実 (7)生徒の学習意欲の向上</p>	<p>(1)将来を見越してのコース再編の決定 (2)①シラバスの見直し ②模擬試験分析コンテンツの研修 ③定期的な教科会の実施 (3)令和6年度に実施した内容を精査し主体的に取り組むための教材の選定 (4)①4技能養成の方向性を維持し、技能を伸ばすための工夫をする。 ②語学研修の計画 ③海外大学との連携 (5)①学力推移調査など各種検定試験の分析 ②早朝テスト実施 ③補習の実施 ④高校進学（内部進学）を見据えた目標設定 ⑤カリキュラムの改定 (6)①Uゼミの実施内容の再考 ②デジタル教材の利用 ③自学自習体制の確立 (7)①学習イベントの実施 ②大学見学会の見直し及び実施 ③大学ガイダンスの実施</p>	<p>(1)1学期末まで (2)①1学期末まで ②実施回数 ③実施回数 (3)学校評価の指標を「3」以上を目標とする (4)①英検での資格取得 ②オーストラリア・セブ島の以外の研修地の精査 ③テイラーズ大学との連携 (5)①会議等での報告 ②実施計画案の設定と提出 ③実施内容の報告と提出 ④入試実績により達成度を確認 ⑤1学期（遅くとも2学期中間考査までに） (6)①1学期末まで ②利用率の数値 ③自習教室の運営 (7)①実施内容 ②実施内容 ③実施内容</p>	<p>カリキュラムの編成は一応終了した。 D ①進歩できなかった D ②行うことができた B ③効果的に行うことができた A B 探究の時間について検討し、現状に合った教材の導入を決定した。 A (3)①2、準2級の取得者が増加した A ②両コースとも20名前後の参加であった。 D ③大学との交流までには至らなかった。 A ①一部の分析はしたが、未報告。 B ②全学年で実施。 D ③実施・報告のみで書類は未提出。 ④内部進学規定は定着してきた。 ⑤予定よりかなり遅れている。 B ①国数英の3教科に特化する形になって。 C ②講座によって数値が異なるため次年度への課題。 A ③教務の方で効果的な利用法を考え実行した。 B ①夏期講習の実施 A ②国公立・私立の大学の見学を行った。 A ③校内で大学ガイダンスを実施。好評であった</p>
<p>III</p>	<p>(1)アフタースクール計画構想 (2)「ICT」環境の充実・活性 (3) 安心・安全な学校を目指す</p>	<p>(1)①状況調査を行う ②補講習実施 ③財源の確保 (2)授業における ipad 利用の充実と BLEND 等を利用した発信 (3)①いじめ防止対策委員会の定期的な開催 ②職員研修の企画と実施 ③classi 等で学校の様子を保護者に発信する。</p>	<p>(1)①計画表の作成 ②学年での調整 ③予算の立案 (2)ipad を利用した生徒の実感の把握 (3)①開催頻度 ②実施回数 ③発信回数</p>	<p>C 各学年の終礼時間が来年度より揃うことになるので詳細については検討中である。 A (2)6学年すべてがiPad 使用可能となり、BLEND やロイロノート等日々の学習において活用されている。 A ①事象が発生後は必ず実施していた。 A ②実施回数は適当であった。(2回) C 実施ができなかった。</p>
<p>IV</p>	<p>(1)「上宮」の強みを活かした広報を検討 (2) 広告費の精査を行う (3)中学校受験者確保のため、塾訪問のあり方を、イベント等を検討する</p>	<p>(1)①入学者アンケートを4月当初に実施 ②受験以前の市場調査に取り組む (2)上宮のネームバリューが遍く行き渡っている中での、効率的な広告方法 (3)学校見学会の内容を充実させる</p>	<p>(1)①1学期末に分析結果を出し、 (2)に反映する ②1学期中に調査内容を精査 (2)③学期末に公表する (3)体験授業などの開催</p>	<p>C ① 分析までに至らなかった。 ②来年度は検討が必要である。 B 精査は行ったが、十分な削減ができなかった。 B 塾訪問に関しては、入試対策部員の減少で思ったような塾訪問ができなかった。 説明会で生徒を前面に出したのは効果があったと思われる。今後体験授業などのイベントを企画していく必要があると思われる。</p>

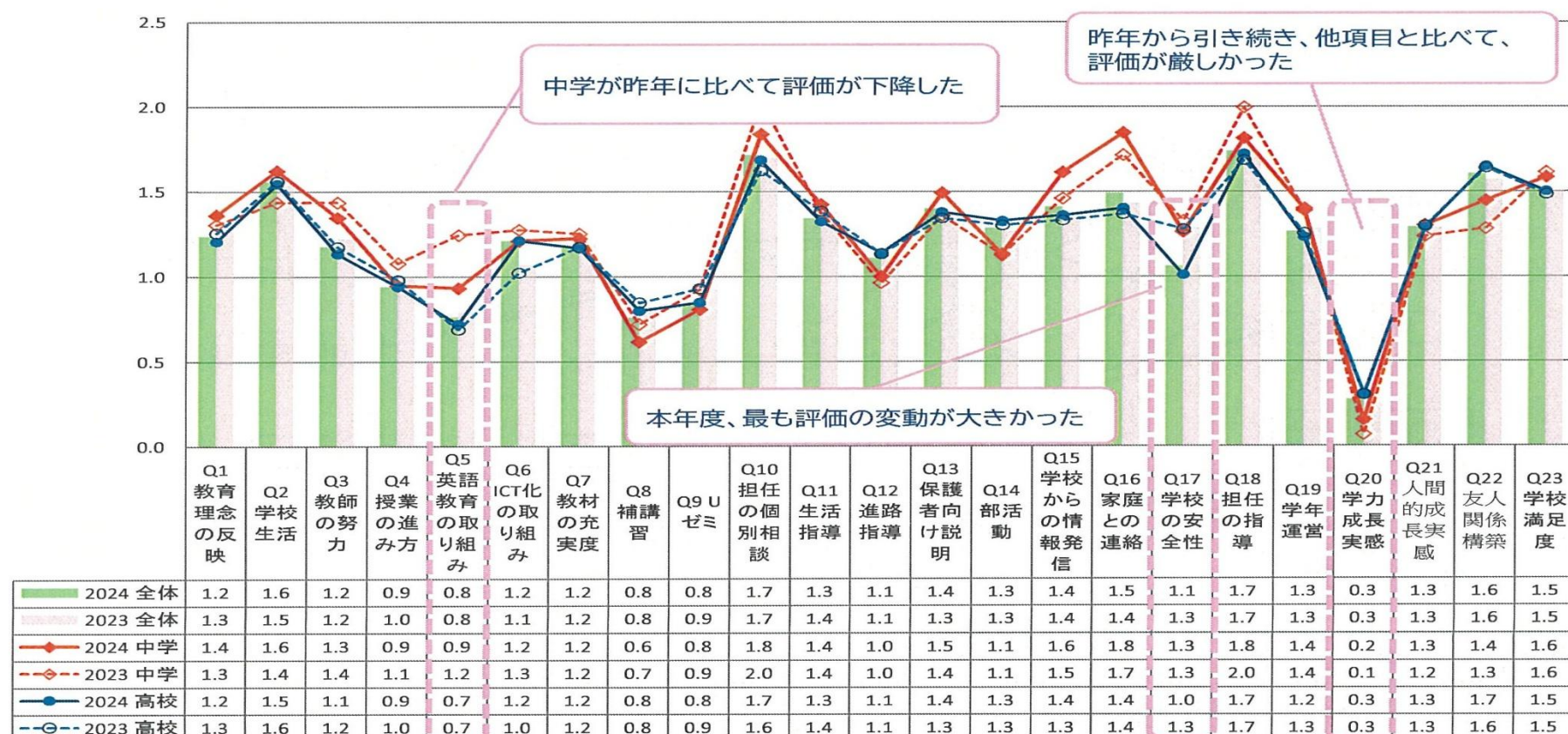
V	(1)事業計画に基づく財政計画の策定	(1)教育環境の整備計画推進	(1) ICT 教育環境の整備	A A A A	(1) 入試合否判定システム等の導入により業務の効率化が図れた
	(2)強固な財政基盤の確立	(2)①教育力向上のための給与体系の見直し ②法改正等による諸制度の見直し	(2)①計算書類 ②寄附行為の改訂によるガバナンスの強化並びに就業規則の改訂による労働力の向上		(2) ①契約の見直しによる経費の適正化 ②改定案届出
	(3)社会変化に対応できる組織力の確立	(3)①「働き方改革関連法」に則した勤務体制を整備する。 ②高齢雇用安定法にも対応できる教職員人事制度改革の検討	(3)①変形労働カレンダーの作成 ②就業規則等の改訂		(3) ①繁忙期と閑散期のメリハリが付いていない ②改定案届出
	(4)学園ブランドの確立	(4)①同窓会・保護者会・産業界との連携強化 ②地元地域との交流 ③生徒募集に向けての発信力の強化	(4)①総会及び行事での交流 ②学園設備の貸出や行事での交流 ② 入試対策部・広報係との連携		(4) ①コロナ明けによる行事の復活で交流が深まった ②③地域集会参加と浄土宗開宗 850 年慶讃記念事業参加

5 学校評価アンケートの結果と分析

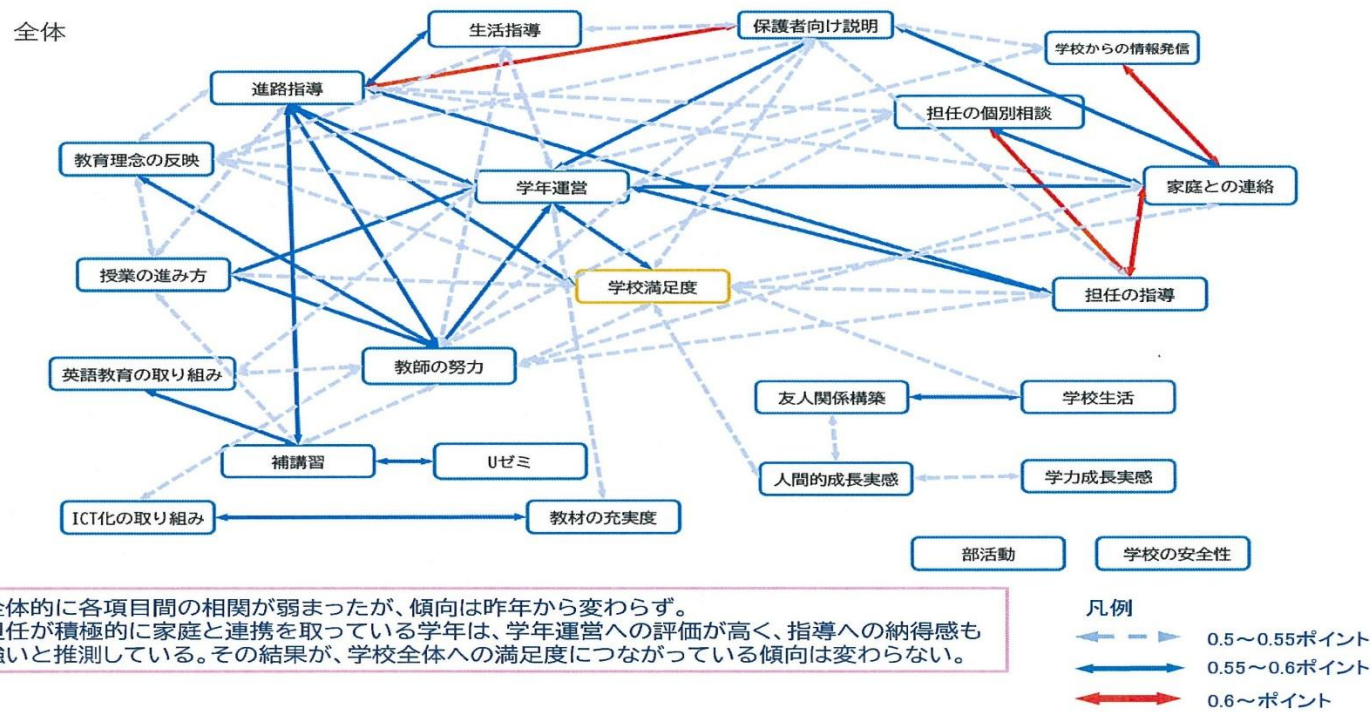
例年と同様に classi を利用したアンケート調査形式を採用した。中高の保護者 1 2 6 6 名から回答を頂き、回答率は 6 2 % (中学 7 1 %、高校 5 3 %) と昨年の 6 8 % (中学 7 6 %、高校 5 9 %) を下回った。特に高校の回答率の低下が著しかった。アンケートの回答の行い方については今後検討する余地があると思う。質問事項は昨年と同様の下記の 2 3 項目であるが、各質問とも 4 段階評価とし、最高評価を -3 点として平均値を算出した。基準としては「2.0 以上…目指すレベルをクリアーしている、1.0 以上…最低限クリアーしている、0.5 以上…早急な対策を要する、0.5 以下…即時の対策が必要」と認識している。

No	2024 年 学校評価質問文	短縮表記
1	教育理念が教育活動全般に反映されていると感じますか？	Q 1 教育理念の反映
2	お子様の学校生活は楽しく充実していると思いますか？	Q 2 学校生活
3	教師は生徒の学習意欲を高める努力をしていると思いますか？	Q 3 教師の努力
4	お子様から聞かれて、授業の進み方には満足していますか？	Q 4 授業の進み方
5	英語教育に関する取り組みは充実していると思いますか？	Q 5 英語教育の取り組み
6	本校の ICT 化への取り組みは充実していると思いますか？	Q 6 ICT 化の取り組み
7	教材やテキストは充実していると思いますか？	Q 7 教材の充実度
8	平常の補講習は、進路実現に向け充実していると思いますか？	Q 8 補講習
9	Uゼミ (英検対策、オンライン英会話を含む) は、進路実現に向け充実していると思いますか？	Q 9 Uゼミ
10	担任は親身になって個別的な相談に応じてくれますか？	Q10 担任の個別相談
11	基本的な生活習慣が身につく生活指導が行われていますか？	Q11 生活指導
12	将来の進路や生き方についての指導が十分なされていると思いますか？	Q12 進路指導
13	進路及び教育活動に関する保護者説明会や懇談会は充実していると思いますか？	Q13 保護者向け説明
14	部活動は活発で内容が充実していると思いますか？	Q14 部活動
15	学校からの通信や文書は、学校の様子が家庭に良く伝わる内容になっていますか？	Q15 学校からの情報発信
16	学校や教師は家庭との連絡を大切にしていると思いますか？	Q16 家庭との連絡
17	本校の防犯、安全管理への対策は十分だと思いますか？	Q17 学校の安全性
18	現在のお子様の担任の指導には満足されていますか？	Q18 担任の指導
19	現在のお子様の学年の運営には満足されていますか？	Q19 学年運営
20	我が子は期待している通りの学力的成長をしていると思いますか？	Q20 学力成長実感
21	我が子は学校生活を通して人間的に成長をしていると思いますか？	Q21 人間的成長実感
22	学校はよい友だち関係を築く場になっていると思いますか？	Q22 友人関係構築
23	本校を選ばれたことに満足されていますか？	Q23 学校満足度

① 単純集計結果 (全体・中学・高校)



② 項目間相関分析(全体)



本年度のトピックス

③ 成長実感タイプ別分析

■各グループの回答者数の割合も昨年と比べて大きな変化は見られなかった

<p>グループA 両質問高評価群 726名 (57.3%)</p> <p>Q20 学力成長実感 プラス評価 Q21 人間的成長実感 プラス評価</p>	<p>グループC 人間的成長高評価群 425名 (33.6%)</p> <p>Q20 学力成長実感 マイナス評価 Q21 人間的成長実感 プラス評価</p>
<p>グループB 学力成長高評価群 15名 (1.2%)</p> <p>Q20 学力成長実感 プラス評価 Q21 人間的成長実感 マイナス評価</p>	<p>グループD 両質問低評価群 100名 (7.9%)</p> <p>Q20 学力成長実感 マイナス評価 Q21 人間的成長実感 マイナス評価</p>

本年度のトピックス

高校：特進系コース群は学習に関する項目が学校満足度に直結

コース群別 学校満足度と相関の高い項目

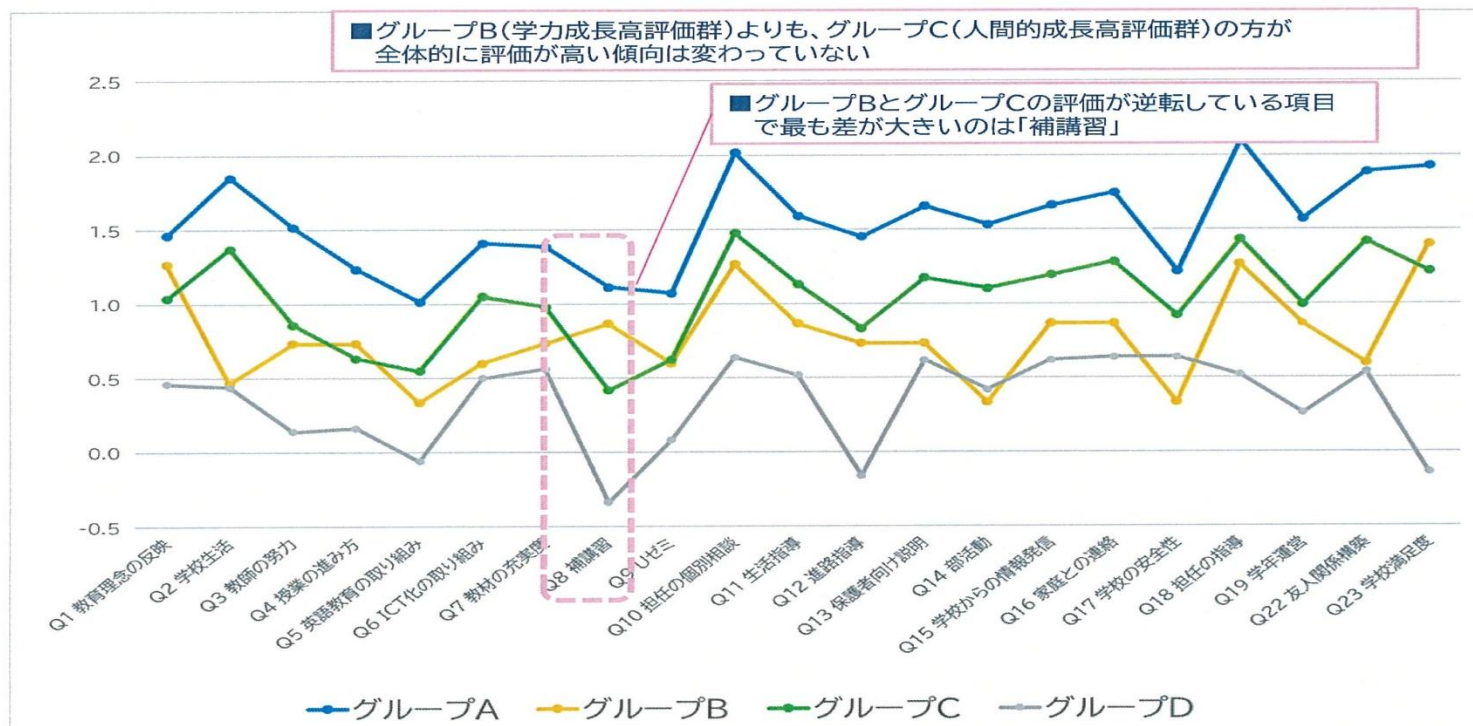
特進系コース群 (高1:Power・英数・特進 / 高2:Power文理・英数文理・特進文理 / 高3:国公立I型文理・I型文理)	普通コース群 (高1:ブレック・技能・一貫ブレック / 高2:ブレック文理看・技能 / 高3:ブレック文理看・技能・一貫ブレック文理看)
教師の努力 / 家庭との連絡 相関係数:0.63	学年運営 スコア:0.57
進路指導 相関係数:0.61	進路指導 スコア:0.56
学年運営 相関係数:0.60	人間的成長実感 スコア:0.55
学力成長実感 相関係数:0.57	学校生活 スコア:0.53
学校生活 :0.56	担任の指導 スコア:0.53
人間的成長実感 スコア:0.55	友人関係構築 スコア:0.51

特進系コース群と普通コース群を比べると、「学力成長実感」と「人間的成長実感」の学校満足度への相関の高さが逆転しており、それぞれのコースに対する保護者の期待が異なっていることが伺える。また、「教師の努力」も特進系コース群のほうが、学校満足度とより強い相関がみられており、さらに、「学力成長実感」と「教師の努力」の相関も特進系コース群は強いことから、より学校側の手厚い対応を期待している様子。

普通コース群では、特進系コース群よりも、「人間的成長実感」、「友人関係構築」などの項目が優先順位としては高いことが伺える。

本年度のトピックス

成長実感タイプ別のその他項目のスコア



6 学校評価の総括

令和6年度は、学校行事など、新型コロナウイルス以前の状態に戻った。ただ、文化祭は来場者を制限しての実施となった。高校生の修学旅行の行き先も海外へとなり、本来の教育活動を取り戻してきた。長年続けてきた「上宮ルーブリック」も、その伝統を踏襲しつつ、しかも生徒に分かりやすい内容の「キャリア・パスポート」として、中学1年、高校1年から取り組むことになった。2024年度学校評価・学校教育の項目については、概ね達成できたようであるが、セキュリティー対策の甘さが露呈した年でもあったが早急に対策を講じ、生徒の安全を万全のものとした。

学校評価アンケートでは、昨年度同様、Q5「英語教育の取り組み」、Q6「ICT化の取り組み」そしてQ20「学力成長実感」の項目を追加した。Q5では中学校と高校とで差がついた結果となった。中学校では一学年のクラス数が少ないことを活かし、ネイティブでの授業、少人数制による授業の展開そして暗唱大会など、英語に親しみかつ実践的な授業を行うことができたが、一方高校では大学受験を見据えた授業を展開しており、学ぶ方向性の違いが数値の差に表れたと思われる。Q6の「ICT化の取り組み」では、成績確認など昨年より「BLEND」上で行うことになっているが、徐々に生徒、教員に浸透しつつあるように感じる。昨年度同様、Q20「学力成長実感」の数値が気になることである。大学進学実績（主に国公立大への進学率）にも反映しつつあるので、学園として真摯に受け止め、問題解決に取り組んでいきたい。ただし、Q8、Q9の項目とは無関係ではないと思われるので、具体的な方策は総合的に考える必要があると思われる。一方で、担任が関わる項目は全てにわたって高評価であった。担任の関わり方の重要性が保護者にとっていかに安心感を与えられるかが明白になり、今後も大切にしていきたい。

最後に、今回の保護者アンケートからは、学校運営に保護者の皆様のご理解・ご協力が必須であることが再認識できた。今年度、保護者会活動が再開され、従来の形に戻ってきた。以前のように保護者の方々とのコミュニケーションを通じて、生徒・保護者・学校がともに力を併せ、ともに成長発展していくことを切に望んでいる。

7 学校関係者評価

【進学率について】

近年、国公立大学及び有名私立大学への進学率が低下傾向にあることが見受けられ、進路指導の内容や体制に課題があるのではないかと懸念しております。学校評価においてもQ20学力向上が課題となっております。つきましては、生徒一人ひとりの希望進路に向けて、基礎学力の向上を図るとともに、進路意識を高めるための新たな進路行事の企画・実施をご検討頂きたく存じます。また、学年全体への一律的な指導に加え、生徒個々の現状や希望に応じた、よりきめ細かな進路指導体制の構築を考える必要があると思われる。

1. 新たな進路行事の設定
2. 基礎学力向上への取り組み
3. 個別進路指導体制の構築
4. 保護者との連携強化

【授業等について】

授業の質に関して、担当教員によって大きな差が見受けられるように感じている。中には非常に熱意を持って指導されている先生もいる一方で、授業に対する意欲が十分に感じられない先生もいるように思われる。つきましては、教員の授業力および人間力の向上に向けた研修や支援体制の充実を検討し、生徒がより質の高い教育を受けられる環境の整備を考える必要がある。

【建学の精神について】

本校の学順である「一に掃除、二に勤行、三に学問」に基づき、建学の精神を日々の教育活動に反映させることは大変重要であると認識している。しかしながら、現状では「三に掃除」の精神が十分に浸透・徹底されておらず、終礼後の清掃活動や日常の教室整備において、クラス間でばらつきが見受けられる現状があります。つきましては、学校全体として建学の精神を統一的かつ継続的に指導して頂き、生徒一人ひとりがその意義を理解し、実践できるような体制の整備を考える必要がある。

【警備体制及び防犯対策について】

北キャンパスと南キャンパス間の往来があることは理解しておりますが、現状の警備体制に対して十分な信頼性が感じられず、懸念を抱いております。Q17の評価にありますように他校においては、若年層の警備員を配置するなど、より機動的かつ実効性のある警備体制が整備されている例も見受けられます。つきましては、本校における緊急時の防犯体制を含め、現在の警備体制が本当に安全であるかどうか、改めて見直しを行って頂き、生徒が安心して学校生活を送れる環境の整備を考える必要がある。

令和6年度 各学年における、本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

【学年】 どの部署も、游明朝 10 ポイントでご記入ください。 5項目とは限りません。

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析
中学1年	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒の自立を促す (2) 教員間のチームワーク育成 (3) 基礎学力の確立 (4) 生徒とのコミュニケーション (5) 「思いやり」の心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 全生徒がクラス内で何等かの仕事を受け持ち、責任をもって行わせる。 (2) 学年会や情報交換を通じて生徒への対応を円滑に行う (3) 授業の充実と、小テスト・補講習の実施 (4) 学年団による生徒への声かけ (5) マナー指導や、友達との接し方の助言 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒によるクラス運営が円滑におこなわれている (2) 教科担当から担任への生徒情報の報告 (3) 小テストの頻度 (4) 学年団の先生が、生徒全員の名前を覚え、各生徒と1度は会話をする。 (5) 生徒間トラブルの削減 	<ul style="list-style-type: none"> (1)B (2)A (3)B (4)A (5)A <ul style="list-style-type: none"> (1)日常から主体性が育つ仕組みを考える必要がある。 (2)学年団間で頻りに情報交換ができた。 (3)学力に合った補習をする必要がある。 (4)教員と生徒との良い関係が築けた。 (5)常に生徒を見守り、友人関係において適切なアドバイスができた。
中学2年	<ul style="list-style-type: none"> (1) 安心できる学校生活の実践に向けた生徒指導の確立。 (2) 学年の教員間による情報の共有、学年会の活性化。 (3) 基礎学力の定着に向けた、宿題・早朝テスト・補講習等の企画と運営 (4) 人間教育の充実化 (5) 学年関連行事の調整・行事予定の作成、および企画と実施 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教員間の情報共有を密にし、学年全体で生徒指導にあたる。学校生活の送り方などを指導していく。 (2) 学年会の開催を定期的に行う。意見を集約し共有する。 (3) 生徒に一方的にやらすだけではなく、放課後学習などのフォローも重点に行う。 (4) 人権教育などを使い、グループワークで生徒に考えさせ意見を交換させる。 (5) 学年の会議や、職員室にての議論の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒指導頻度での評価。 (2) 学年の会議の回数 (3) 実施回数や課題提出の回数や有無により評価する。 (4) 振り返りシートを実施 (5) 行事の回数やブラッシュアップされた行事の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)A (2)B (3)A (4)A (5)A <ul style="list-style-type: none"> (1) 学年団で情報の共有を密にできていたおかげで、問題行動もいち早く確認でき対応できた。 (2) 学年会の機会を多く設けられ、行事や取組みへいろいろなアイデアを共有でき実施できた。 (3) 英語、数学、国語で早朝テストを実施できた。英語では居残り学習も実施することができた。また、学年会を学期毎に開催し、日々の生活態度指導やルールの徹底などが出来た (4) 各担任の先生より、ホームルームで伝達がスムーズにできた。保護者からの連絡も学年で共有することで対応が適切にできた。 (5) 会議内容を事前に連絡し、意見や情報を発信しやすい雰囲気を作ることができた。
中学3年	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着に向けた指導。 (2) 保護者との連携による家庭学習習慣の定着と自学自習力の育成。 (3) 最上級生としての自覚と生活態度の向上を促す。 (4) 教員間の情報の共有を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 今年度から、内部進学規定があるので、それを踏まえた授業を行い、自覚させる。 (2) Classi のメッセージ等で密な連絡を取る。 (3) ホームルームや学年集会などを利用し、生徒に周知させる。また、授業においても中3という自覚を持たせる。 (4) Classi などを通じ、生徒への積極的な情報を流す。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)内部進学規定の結果により評価する。 (2) 実施回数や課題提出の回数や有無により評価する。 (3) 学年集会などの回数で評価。 (4) 実施回数により評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) B (2) A (3) C (4) A (5) <ul style="list-style-type: none"> (1) 内部進学規定に該当する生徒が1人だったが、ほとんどの生徒が進学規定をクリアできた。 (2) 保護者もかなり学校に慣れてきており、教員との相互理解も深まってきたと思われる。 (3) クラブや日ごろの学校生活において、リーダーシップを発揮する場面が多くなったと思われ、責任感が生まれたと思う。ただ、クラブに参加していない生徒に関しては中2のころとあまりかわらない。 (4) 中2と同様、LINE グループや Google ドライブの共有フォルダなどを駆使しており、教員間の情報共有は満足いくものである。他学年の先生も含め、学年団で自発的に対処できるようになったと思う。 (5)

高校1年	(1) 基本的な生活習慣を確立させる (2) 学年運営及び学年会の活性化 (3) 将来につながる進路指導 (4) 学力向上につながる学習指導 (5) 補講習の充実	(1) 二者面談等を活用する (2) 担任間や分掌ならびに各コースの主任との連携 (3) 進路指導部との連携を密にし、2年次のコース選択につなげる (4) 学習習慣の確立 (5) 放課後講習、期末考査後の補講習の実施	(1) 面談時に確認する (2) 生徒や保護者の声で評価 (3) 生徒の進路に対する意識で評価 (4) 模試の結果分析等で評価 (5) 実施後に生徒からのアンケート等で評価	(1) A (2) A (3) B (4) C (5) C (1) 懇談を活用して基本的な学校生活を送れるように指導を行った。遅刻数は例年に比べて少なかった。 (2) 基本的なところはきっちりとできた。学年会でも活発な意見が出て次年度に向けての改善案を打ち出すことができた (3) 進路指導部からの資料を来年に向けて活かせるように生徒の意識改革をさらに継続して行う (4) 学習習慣が確立されているというところまでには、到達していない。次年度に向けての継続課題である (5) 一部のコース以外での講習はほとんど行われなかった。期末考査終了後の講習についてはアンケートを事前に取り、生徒・保護者のニーズに沿えるような形を次年度は作る
高校2年	(1) 基本的な生活習慣を身につけさせる (2) 将来につながる進路指導 (3) 学校行事に対する積極的な参加 (4) 教員間の連携と情報共有	(1) 二者面談を活用する。 (2) メリハリのある生活態度。 (3) 生徒個々に応じた進路指導をする。 (4) 学校行事などのクラスで取り組み計画。 (5) 学年会の実施とクラッシーの利用	(1) 学校生活・生活習慣において評価。 (2) 生徒の進路に対する意識で評価。 (3) 行事に対する満足度で評価。 (4) 学年会とクラッシーの頻度	(1) (2) (3) (4) 二者三者懇談を活用して基本的な学校生活を送れるように指導を行った。 (2) 進路指導部からの資料を来年に向けていかせるように生徒意識改革を継続する (3) 行事に関する生徒の満足度は高かった。 (4) 学年間の連絡・連携はクラッシーを通じて情報共有は出来ていた。
高校3年	(1) 高いコミュニケーション能力を持つ生徒の育成。 (2) 将来に対する明確なビジョンを持つ生徒の育成 (3) 目標・夢の実現に向けて最後までやり抜く力の育成	(1) 普段の学級活動において自分の意志を伝え、また他人の意見を聞き入れる場を多く持つ。 (2) 希望する進路に対する志望動機を明確に述べられるように指導する。 (2) ホームルームや面談などを活用し、実践例を提示して指導する。	(1) 自分や他人を思いやる言動について評価する。 (1) 志望理由書を作成させ、評価する (2) 生徒の進路に対するこだわりを、面談を通じて評価する	(1) B (2) A (3) A (4) (5) (1) まだ消極的な所が見受けられ、さらに成長させることができた (2) 面談を重ねることにより明確な進路希望を持たせ、志望理由書などの作成も前向きに取り組みさせることができた (3) 3月入試まで諦めず取り組み合格することができた (4) (5)

【コース】 どの部署も、游明朝 10 ポイントでご記入ください。 5項目とは限りません。

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (目標)	自己評価と分析
6 か 年	(1) 自律的学習者の実現 (2) 各学年の学力向上策の促進 (3) 将来の自己像の明確化 (4) 体験的なキャリア教育の実現 (5) 6か年コースとしての独自性の促進	(1) 各教科での学習方法の指導 (2) 各担任の進路指導の共有化 (3) LHR・探究の有効利用 (4) 自分の進路を自分で決めるという主体性の育成 (5) 六か年会議等で協議を行う	(1) 考査・模試等の設定目標の達成度合いによる確認 (2) 六か年会議の中で学年の取り組みにより確認 (3) 懇談・生徒へのアンケート等で確認 (4) 卒業生・上級生からのアドバイスにより確認 (5) 特進・一貫プレップの独自性の実現	(1) B (2) B (3) C (4) A (5) B (1) コースの区別がなくなってきて今後どうしていくかが課題となってきている (2) 個々に確認 (3) 今後も検討が必要 (4) しっかりと実施できた (5) コースの区別がなくなってきているので今後検討が必要
I ・ II 型	(1) 生徒の学力が向上する指導 (2) 生徒自身による将来の進路の決定 (3) 生徒が希望する進路実現 (4) 受験校の指導の適正化 (5) コース残留、移動の基準等についての吟味・変更・実施	(1) 模擬試験の結果の分析と指導 (2) 担当者による情報の提供をもとに進路を考えさせる。 (3) 進路指導内容の共有化 (4) 受験校の指導を複数の教員で行う (5) 残留基準・移動基準を担当者で話し合う	(1) 生徒による模試の数値目標の達成度で確認 (2) 懇談等で担任が確認 (3) 各学年で共有できている全学年で共有できている (4) 各学年で共有できている全学年で共有できている (5) 国公立会議で1学期中に吟味し今年度から実施	(1) A (2) A (3) B (4) B (5) A (1) 各担任で二者面談、三者懇談を効果的に運用できた (2) 各担任で二者面談、三者懇談を効果的に運用できた (3) 担任による指導に終始した (4) 担任による指導に終始した (5) コース会議で検討できた
プレ ッ プ	(1) プレップコースの活性化 (2) 連携・指定校制推薦入試に対する意識の変革 (3) 連携・指定校制推薦に依存しない学力の向上 (4) 生徒の実情に合わせた「パスポート項目」の改定	(1) 行事の見直し(廃止や新規導入)で、生徒の進学意識を高める (2) 説明会等で連携・指定校制推薦がメインの入試でないことを意識づける (3) 模擬試験の復習の徹底などを通して、学力の底上げを図る (4) 年度ごとにプレップ会議で改定について協議する	(1) 業者の教材使用も視野に入れる (2) プレップコース独自の説明会を設ける (3) 「Highschool-online」「Compass」等を利用し取組状況を把握して指導する (4) 各項目の比重を、あるべき生徒像と照らし合わせて決める	(1) B (2) B (3) B (4) B (1) 少しずつ変化を期待 (2) 一般受験の意識を持った生徒も見受けられる。明らかな減少傾向にはない (3) 自習の効果的な利用を検討すべきか (4) 学力(実力)をより重視するように運用したい

令和6年度 各教科における、本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

【教科】 どの部署も、游明朝 10ポイントでご記入ください。 5項目とは限りません。

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析
国語	(1) 基本的国語力の充実 (2) 学力推移調査・模擬試験の全体把握 (3) 補講習の充実 (4) ICT教育の研究と活用 (5) 新課程の評価基準	(1) 授業の厳正化を図る (2) 学力推移調査、模擬試験の成績データの結果の分析と対応策の検討 (3) 各コースの教育プランに基づいた補講習の立案、実施 (4) 1.みらいスクールの活用やオンライン授業への対応の研究 2.デジタル便覧の活用 (5) 1.新課程の観点別評価基準について理解を深めるため教科会を活用し、観点別評価基準の明確化する	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 各コースの数値目標の達成度を確認 (3) 1学期中間考査までを期日とする (4) 1.1 学期末を期日とする 2.2 学期末を期日とする (5) 1学期末を期日とする	(1) B (2) B (3) B (4) B (5) B (1) 個々の教員が授業の工夫を凝らしながら取り組んでいるが、まだ評価をあげることができる。 (2) コース・学年により達成度の確認の差がある。 (3) コース・学年により立案・実施の差がある。 (4) コース・学年により差がある。 (5) 教科会等で共有できているように思われるが、全員の教員には周知徹底出てきていない。
社会	(1) 聞かず授業内容・工夫の向上 (2) 各コースの基礎学力の定着 (3) アクティブラーニング、ICT教育の研究と活用 (4) 新課程への対応に備える (5) 新課程の評価基準	(1) 授業の工夫、生徒対応の工夫 (2) 授業の適切化、課題、帆講習の充実 (3) 科目による PC,iPad,みらいスクールの活用と研究 (4) 新課程内容の情報の共有と対策研究 (5) 観点別評価基準について理解を深めるため教科会で検討	(1) 授業アンケートの数値の向上 (2) 各コースの模試数値目標の達成 (3) 授業アンケートによる数値化 (4) 1学期中を期日とする (5) 1学期中を期日とする	(1) B (2) B (3) B (4) B (5) A (1) (2) 各担当者、日々試行錯誤し懸命に取り組んでいるが、依然として改善していく余地はある。 (3) アクティブラーニングの取り組みは科目ごとにおいて更に研究が必要であるが、ICTについては、各担当者間での多少のばらつきはあるものの、積極的に取り入れた授業展開を行っている。 (4) 新課程初の共通テスト実施年度の為、科目内での対策は行った。 (5) 教科会にてお願いをし、各科目内で十分検討し、適切に評価が出来た。
数学	(1) 基礎学力の定着 (2) 授業の質の向上 (3) 変わりゆく大学入試への適切な対応 (4) ICT教育の充実 (5) 新課程の評価基準	(1) 小テストのこまめな実施や問題集をこまめに取り組みせるよう指導 (2) 考えさせる授業や、ICTの活用などで生徒たちが積極的に学習に取り組める授業を実践する (3) 大学の入試問題を解き、教科内で研究し情報共有し、生徒へ情報還元する (4) デジタル教材やグラフソフトの相互活用 (5) 新課程の観点別評価基準について理解を深めるため教科会で検討	(1) 模試の数値目標の達成度合いで確認 (2) 授業アンケートによる数値化で確認 (3) 2学期初頭を期日とする (4) 授業アンケートによる数値化で確認 (5) 1学期末を期日とする	(1) B (2) B (3) B (4) B (5) B (1) ほぼ達成できていると思われる (2) 向上できていると思われる (3) 皆で入試問題の模範解答を作成し、対応できた (4) 研修会を1度開催できたが、年に複数回研修会ができなかったことが反省点 (5) 教科会で先生方からの情報を共有できていた部分と伝わってなかった部分とがあった
理科	(1) 基礎学力の定着 (2) 生徒の学力、進学実績の向上を目指す (3) 補講習の充実 (4) ICT教育の充実 (5) 新課程への対応	(1) 小テストの実施、実験や授業の活性化 (2) 模擬試験の成績データの結果の分析と対応策の検討 (3) 各コースの教育プランに基づいた補講習の立案、実施 (4) ipad を使用しての、デジタル教科書の有効な活用 (5) 観点別評価の内容検討	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 各コースの数値目標の達成度を確認 (3) 2学期末を期日とする (4) 1学期中を期日とする (5) 2学期中を期日とする	(1) (2) (3) (4) (5) (1) 各科目で取り組んだが、まだまだ組み入れる余地もある。 (2) 各科目積極的に取り組んだ。 (3) 期末考査後の講習を中心に取り組んだ。 (4) ipad 等デジタル機器を利用した授業を積極的に取り組んだ。 (5) 観点別評価を中心に実践を進めた。
英語	(1) 英語学力の向上 (2) 資格試験の情報提供 (3) 大学入試への適切な対応 (4) アクティブラーニング・ICT教育の研究と活用 (5) 新課程への対応	(1) 小テスト・課題・補講習の充実 (2) 英検等の情報収集と実施 (3) 大学入試の情報収集と共有 (4) 情報収集と実践の共有化 (5) 新課程の内容の周知に対して教科会を活用	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 学年末を期日とする (3) 2学期末を期日とする (4) 授業アンケートによる数値化 (5) 2学期末を期日とする	(1) B (2) A (3) B (4) B (5) A (1) 教科平均 3.31 (2) 英検中学年 3 回校内実施 (3) 共有できた (4) 教科平均 3.21 (5) 教科会で情報共有
保健体育	(1) 基礎体力の向上 (2) 安全教育の推進 (3) 規律ある態度の育成 (4) 新課程への対応 (5) ICT の活用	(1) 生涯にわたりスポーツを楽しむ態度の育成 (2) 事故の無い授業の推進 (3) 自主的に授業に参加する態度を育てる (4) 観点別評価基準の明確化 (5) ICT教育の研修、研究、活用	(1) 学年末を期日とする (2) 学年末を期日とする (3) 授業アンケートによる数値化 (4) 2学期末を期日とする (5) 学年末を期日とする	(1) B (2) A (3) B (4) B (5) B (1) 各種目において取り込まれている (2) 大きな事故なくほぼ達成 (3) 課題が残りさらに取り組む (4) 評価について今後も検討が必要 (5) 課題が残る。引き続き取り組む
芸術	(1) 芸術を親しみ愛好する心情を伸ばす授業の展開 (2) 芸術への関心を高めるような内容を構築 (3) 表現及び鑑賞の能力を高める指導の充実を図る (4) 授業の実施方法について教科内の連携	(1) 作品は肯定的に評価し、表現の多様性を理解させる (2) 制作意欲を高める課題の設定 (3) 様々な作品を鑑賞させる (4) 教科会の活性化	(1) 学年末に感想の提出を求める (2) 学期ごとに感想の提出を求める (3) 鑑賞会の実施により意見交換する (4) 中高担当者同士の情報交換を活発化	(1) A (2) B (3) A (4) B (1) 動画などを用い、分かりやすく芸術に興味を持てるよう努力した (2) 生徒間の感想の内容に差が大きいので、課題をより詳しく説明したい (3) 芸術鑑賞会含め、様々なアートに触れさせることができた (4) 情報交換はできたが教科ごとに個性があるため、評価の仕方などをもっと話し合いたい

家庭	(1)家庭科への興味の向上 (2)理解度の向上 (3) 授業の質の向上 (4) 教科内での情報共有 (5) 新課程への対応	(1) 生活の基礎知識である家庭科に興味を持ってもらえる工夫 (2) 生徒が理解しやすいよう教材等の工夫 (3)ICT を活用し、思考力、判断力、表現力の向上を図る (4)教科会の活性化を図る (5)観点別評価の内容検討	(1) 学年末を期日とする (2)授業アンケートにより数値化 (3)授業アンケートにより数値化 (4) 2 学期末を期日とする (5) 2 学期末を期日とする	(1) A (2) B (3) B (4) A (5) A	(1)教員間で話し合い工夫をした (2) 教科平均 3.03 で改善の余地がある (3) 教科平均 3.06 で改善の余地がある (4)教員間で連絡を密に取り合った (5)評価について今後も検討していく
情報	(1) 生徒の ICT スキル向上の指導 (2) 情報モラルの育成 (3) プログラミング能力の育成 (4) 共通テスト対策における指導力の向上 (5) 効果的な教材開発および情報収集	(1) 実習課題を精査する (2) 実社会でのモデルを問題とする (3) プログラミング教材を効果的な利用する (4) 教科会での指導法の研究を行う。 (5) 各種のセミナーに参加し指導法、教材研究の発展につなげる。	(1) 2 学期末を期日とする (2) 授業アンケートにて確認 (3) 学年末を期日とする (4) 学年末を期日とする (5) 学年末を期日とする	(1) A (2) A (3) B (4) A (5) B	(1)効果的な課題を設定できた。 (2)意識向上につながった。 (3)更なる工夫が見込める。 (4)一定の成果があった。 (5)継続して向上につなげていく。
宗教	(1) 授業内容の精査 (2) 教材研究の質を向上 (3) 教員の質の向上 (4) 宗教行事の充実化 (5) 道徳教育への対応	(1) 教科書を元に何を伝えるか協議 (2) 他校と交流して、情報をえる (3) 教科会で授業動画を検証する (4) 学校と宗教行事を協議する (5) 道徳の教科書を周知する	(1) 授業アンケートで数値化 (2) 学年末を期日とする (3) 2 学期末を期日とする (4) 学年末を期日とする (5) 2 学期末を期日とする	(1) A (2) A (3) B (4) B (5) A	(1) 教科書を元にして活発な教科会が実践できた。 (2) 宗門学校の研修会に開催でき情報を得ることができた。 (3) 授業での動画を使つての展開をできた。 (4) 行事を盛り上げることができた。 (5) 道徳の教科書をあまり上手く使いこなせなかった。

【分掌】 どの部署も、游明朝 10 ポイントでご記入ください。 5 項目とは限りません。

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析	
高校教務	(1) 学園内における連絡事項の周知徹底 (2) 行事の精査、企画運営 (3) 時間割および教員の持ち時間数の公平性 (4) デジタル配信による、情報の取扱いについて (5) 観点別学習を含め、内規の検討改訂	(1) 職員朝礼、職員会議、教科会等の抜け、漏れが出ないように工夫する。 (2) コロナ禍における行事の変更、運営方法の変更から、コロナ禍明けの現在に適した行事の再構築を行う。 (3) 教科主任への徹底、事前には是正ができるよう取り組む。 (4) ペーパーレス化が進む中、情報の取捨選択、精査が重要になってきている。 (5) 観点別学習評価導入を受けて、現状に則した内規の検討。	(1) 記録の利用 (2) 生徒・保護者の満足度を上げる。 (3) 年度内の早い時期より、次年度に向けて取り組みができるようにする。 (4) BLEND、Classi といった支援アプリの利用ルールの導入 (5) 令和 8 年度中に完成 令和 6, 7 年度で細部の検討	(1) A (2) A (3) C (4) B (5) B	(1) 職員朝礼ごとに全教職員が確認できるように配信を続けた。週当たりの行事及び連絡事項を載せた。 (2) 今年度では、定期考査における生徒の自習の在り方を精査し、集中して取り組める自習室の実施を試みた教員の負担が減少出来そう (3) 教科科目の特性もあり、全教員が公平とはならない講師の勤務条件も複雑化しており、継続課題である。 (4) デジタル配信によるペーパーレス化は順調に進んでいるが、適正なルールの制定が早急に必要である。 (5) 検討を重ね徐々に改訂ができてきている。
中学教務	(1) 生徒・保護者への情報伝達の迅速化。 (2) 学年行事の見直しと改善。 (3) 学習評価の明確化。 (4) カリキュラムの検討。 (5) 備品や必要書類の整理・整頓。	(1) 連絡手段として便利であるので、生徒・教員ともに連絡等の手段として積極的に活用する。 (2) 新型コロナウイルスの影響により変更した行事の復活等、検討する。 (3) 教科により、学習評価の方法が異なる部分があるので、教科担当先生と打ち合わせし、誤りのないようにする。 (4) カリキュラムが適正かどうかの検討を進める。 (5) 教務部の誰もが対応できるように整理整頓を行う。	(1) 生徒・保護者への連絡で Classi を利用した際、「見ました」ボタンの押しした率を 80%以上とすることを目標とする。 (2) 授業参観等具体的に提案、検討を重ねる。 (3) 全教員に徹底できる様、準備を進める。 (4) 2024 年度中に検討する。 (5) 2024 年度中、継続する。	(1) B (2) A (3) B (4) C (5) B	(1) 第 1 学年の開始当初は、達成できているときもあったが、2・3 学期になるにつれ達成できていなかった。 (2) 授業参観を再開することができた。 (3) 誤りはなかったが、成績入力面で課題が残った。 (4) 検討を始められたが、結論には至らなかった。 (5) ある程度共有できた。

<p>生活指導</p>	<p>(1)『生活指導マニュアル』の指導方法及びその内容の見直し。そして全教員の統一された指導を実践する。</p> <p>(2)身だしなみを整える(頭髪・上着のボタン、リボン、ネクタイ、アンダーシャツ、化粧)。</p> <p>(3)挨拶を交わす。</p> <p>(4)時間を守る。チャイム登校・遅刻0を目指す。</p> <p>(5)規範意識を持たせることを、生徒の自主性から導き、違反をしないようにさせる。</p> <p>(6)薬物乱用防止教室・防犯教室を実施する。</p>	<p>(1)生活指導部の役割の明確化、担任及び学年中心の指導体制を構築する。生活指導部は担任指導のサポートをする。ただし、問題行動に関しては機密事項も含まれ、人権問題にも発展するので慎重を期する。</p> <p>(2)頭髪は流行をおわず、本校の生徒らしさを求める。リボン・ネクタイ忘れ、制服のボタン留忘れがないようにするための声かけをする。化粧は、外見を飾らず内面を磨くことに努めさせる。</p> <p>(3)さわやかな挨拶や相手を思いやる言葉かけを目指す。</p> <p>(4)常に時間に余裕を持ち、5分前行動を心がけるよう指導する。また、健康管理にも気を配る。</p> <p>(5)失敗や間違いを正しく理解し、素直な心で改善する。また、思いやりの心を育み、人にやさしい人間づくりを目指す。</p> <p>(6)外部より講師を招き啓発活動を行うトラブルに巻き込まれないよう、正しい知識を身に着ける。防犯については「SNS」に重点を置き、加害者にならないよう注意を促す。</p>	<p>(1)1学期中を目指したい。</p> <p>(2)継続して取り組みたい。</p> <p>(3)今年度中を目指したい。</p> <p>(4)今年度中を目指したい。</p> <p>(5)今年度中を目指したい。</p> <p>(6)高1を対象に1学期実施予定。</p>	<p>(1)B (1)他校の情報も聞いて、本校にあった生徒指導を目指したい。引き続き内容の検討を進める。</p> <p>(2)C (2)違反をする生徒はおよそ同じ生徒で、繰り返し行う傾向が強くなってきている。「1掃除」を実践すべく、細部においても気配りできる生徒になってもらいたい。</p> <p>(3)B (3)声を出して挨拶できるようになってきているように思う。</p> <p>(4)C (4)相変わらず駆け込み登校が減少しない。また、配慮生徒の数も増加傾向にある。</p> <p>(5)B (5)言い逃れのため、うそをつく生徒が目立ってきている。素直な心を育てていきたい。</p> <p>(6)A (6)今年度は、中学生と一緒に体育館で実施しました。薬物乱用防止・SNS・痴漢被害の3教室を実施。</p>
<p>進路指導</p>	<p>(1)進路学習の見直し</p> <p>(2)基礎学力の向上</p> <p>(3)Uゼミの安定実施</p> <p>(4)本校生徒の現状把握</p> <p>(5)生徒保護者への情報提供</p>	<p>(1)進路LHRと進路探求の連携実施</p> <p>(2)スタディサブリの利用促進</p> <p>(3)Uゼミの内容等の周知徹底</p> <p>(4)模試成績及び受験結果の分析</p> <p>(5)Classiを利用した情報の提供及び進路行事の検討</p>	<p>(1)進路LHRと進路探求の連携実施する。</p> <p>(2)スタディサブリの利用率の向上</p> <p>(3)Uサイトの定期的な更新</p> <p>(4)資料を作成する</p> <p>(5)新たな進路行事の実施</p>	<p>(1)C (1)実施計画の検討は行ったが立案には至らなかった。</p> <p>(2)C (2)年間計画の検討は行ったが立案には至らなかった。</p> <p>(3)B (3)運営法について検討を行った。引き続き、実施に向け準備を進める。</p> <p>(4)B (4)進路状況等資料の作成は行ったが、有効利用出来ていない。</p> <p>(5)A (5)高校1,2年生を対象とした進路ガイダンスを実施した。他学年についても引き続き、検討を進める。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">入試対策</p>	<p>(1) 塾・中学校訪問を中心としたより効果的なアプローチの検討。</p> <p>(2) 入試説明会等の日程、内容の吟味とプレゼンテーションのあり方についての研究。</p> <p>(3) 新しいタイプの入試方法を検討する。(資格取得者の点数化あるいは優遇措置も含む)</p> <p>(4) 中学入試の日程及び広報等に関する提案。(一般学力型・適性検査型・自己アピール型)</p> <p>(5) 入試関連行事において、関係各部署と情報の共有化を図る。</p>	<p>(1) 渉外担当で各エリアの全塾、全中学校を訪問する。</p> <p>(2) 他校とのバッティング、内容の再確認(在校生、卒業生、保護者の登壇等)をし、より効果的な説明会を実施する。</p> <p>(3) 特に中学入試に関して、他エリアの現状を研究しながら実施可能なさまざまなタイプの入試方法を検討する。</p> <p>(4) 中学入試分析セミナー等に参加し、入学生が増える入試日程や方法を検討し実施する。</p> <p>(5) 情報の共有を会議、レジュメ、クラッシーを通じて強化する。</p>	<p>(1) 受験生、新入生の定員確保。高等学校専願者を増加させる。</p> <p>(2) より効果的な説明会を実施する。</p> <p>(3) 実施可能なさまざまなタイプの入試方法を検討し、実施する。</p> <p>(4) 入学生が増える入試日程や方法を検討し実施する。</p> <p>(5) 入試関連行事の滞りのない運営。</p>	<p>(1) C</p> <p>(2) B</p> <p>(3) C</p> <p>(4) B</p> <p>(5) A</p>	<p>(1) 入試対策部渉外部員の減少で、各担当者の担当塾数が増え、渉外活動のみで終わってしまった。説明会に参加した生徒、児童の塾へのアプローチをかけることが少なかった。</p> <p>(2) 中学校、高等学校の説明会では、生徒が前面に出る場面が多々見られるようになった。今後卒業生、保護者の登壇や塾対象説明会での生徒の起用(授業と並行なので動画の起用)も考えていかなければならない。</p> <p>(3) 特に新しい入試方法は実施していない。今後中学校入試においては、自己アピール型においてスポーツ分野も可能にする。資格取得者の点数化あるいは加点制度等を検討していかなければならないのではないか。受験生減少に向けて、入試科目の減少等も今後考えていかなければならないのではないか。</p> <p>(4) セミナーに参加し中学入試日程について検討した。本校との併願校(常翔学園中学校、近畿大学付属中学校)とのバッティングを考えると、現行の日程が最適かと思われる。</p> <p>(5) 入試説明会、プレテスト等で関係各部署との情報の共有、連携ができた。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ICT</p>	<p>(1) BLEND の利用促進</p> <p>(2) 観点評価処理の構築</p> <p>(3) 成績処理の円滑化</p> <p>(4) 入試処理の円滑化</p> <p>(5) 生徒の iPad 利用促進</p>	<p>(1) Classi によって周知徹底を行う。</p> <p>(2) モチベーション社との打ち合わせを入念に行う。</p> <p>(3) 成績入力後の確認徹底を行う。</p> <p>(4) 入試に向けて準備徹底を行う。</p> <p>(5) 教員向け研修を行う。</p>	<p>(1) 出欠未登録の減少</p> <p>(2) 今年中の完成</p> <p>(3) 成績訂正の減少</p> <p>(4) 処理時間の短縮</p> <p>(5) 1日の授業時数の半数での iPad 利用</p>	<p>(1) B</p> <p>(2) B</p> <p>(3) B</p> <p>(4) A</p> <p>(5) B</p>	<p>(1) 未登録は減ったがまだ完璧ではない</p> <p>(2) 成績算出が煩雑で不具合多発</p> <p>(3) まだまだ訂正や未入力多い</p> <p>(4) 安定してきた</p> <p>(5) 色々な WEB サービスの利用促進はまだまだできる</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">総合的探究</p>	<p>(1) 「総合的な探究の時間」の内容や意義を理解させる。</p> <p>(2) 探究課題を積極的に見つけさせる。</p> <p>(3) 課題解決に向かう主体的な姿勢を身につけさせる。</p> <p>(4) 地域・社会貢献への意識をもたせる。</p> <p>(5) 結果をまとめ発表できる表現力を身につけさせる。</p>	<p>(1) 会議・ガイダンスで説明を周知徹底する。</p> <p>(2) 創意工夫により事実を理解させ、問題意識をもたせる。</p> <p>(3) 実例をあげて主体的に取り組ませる。</p> <p>(4) 社会・環境情勢に興味をもたせる</p> <p>(5) 各学年、生徒各自で探究学習の記録を残させる。</p>	<p>(1) 全学年・クラスで総合的な探究の時間に取組む。</p> <p>(2) 探究課題の設定を行う。</p> <p>(3) 情報の収集と分析・整理を重視する。</p> <p>(4) 探究課題の考察と総括を行う。</p> <p>(5) クラス・学年全体の単位で発表させる。</p>	<p>(1) B</p> <p>(2) B</p> <p>(3) B</p> <p>(4) C</p> <p>(5) A</p>	<p>(1) 全クラスでの実施にあたって、教員対象の研修会や新入生へのオリエンテーションでの説明を行ったが、その意義の周知徹底には至らず、さらに進める必要がある。</p> <p>(2) クラスやグループごと、あるいは個人で、課題やテーマを設定させた。身近な問題に意識を向ける機会を増やしていくべきである。</p> <p>(3) 情報の収集や分析の手法は身につけさせることができた。高2学年では修学旅行に関する活動を主体的に行う生徒が多く見られた。次年度高1では生徒が自ら取り組むようなものを導入する。</p> <p>(4) 地域・社会の課題についての考察を深めるには至らなかった。社会や環境についての興味を持たせ、自らの生活と結びつけて考えさせたい。</p> <p>(5) 高1では各クラスで教材を用いて発表やプレゼンの実践を、高2では異文化理解についてグループによる発表を行い、共有した。今後も生徒が表現する機会を設けていく。</p>

<p>広報戦略</p>	<p>(1) 学校案内、ポスター等の作成 (2) プレテストの案内チラシの作成 (3) 保護者・入学生徒へのアンケートをもとに web 広告、デジタル広告の精査 (4) パンフレットのデジタル化に向けての研究</p>	<p>(1) 年度の早い段階での完成 (2) デザイン性が優れ、プレテストに参加したいと思えるようなリーフレットをデザインする。 (3) 広告案についての研究を進める (4) 他地域（首都圏）などの状況も研究対象にする</p>	<p>(1) 中学パンフは4月下旬、高校パンフは5月下旬の完成予定 (2) 他校との比較研究 (3) 広告研究 (4) 具体的に進めることができるのかも含め、研究する</p>	<p>(1)B (2)A (3)A (4)A</p>	<p>(1) 業者とのトラブルがあり完成に手間取った。 (2) ダイジェスト版など新たな広報物の製作に踏み切れることができた (3) 精査をし、限られた予算の中で有効な広告に絞り込んだ (4) アナログ→デジタル化に向けて一歩進めることができた。</p>
<p>図書館運営</p>	<p>(1) 昨年度以上の貸出冊数をめざす。中高合わせて7000冊をめざしたい。 (2) 書庫の整理を行っていく。 (3) 紀伊国屋書店との連携を取り、図書館運営を生徒にとって有意なものにしていく。 (4) アクティブラーニングスペースを有効活用してもらい、有意義なスペースにしていく。 (5) 放課後の図書館の使用方法を今後見直していく。</p>	<p>(1) LIBSTAGRAM や図書館報などの呼びかけで図書館に来る生徒数を増やしていく。 (2) 古い雑誌類を中心に破棄することに努める。 (3) 月に一度の会議を行っていく。 (4) 中学だけに問わず、高校の各教科の先生にも活用してもらおう。 (5) テスト前などの使用方法や利用者増加のための策を考える。</p>	<p>(1) 7000冊以上 (2) 書庫の廊下にある書籍を無くす。 (3) 年間12回 (4) 1日1時間以上の高校授業 (5) 生徒にアンケート評価の実施</p>	<p>(1) A (2) A (3) A (4) B (5) B</p>	<p>(1) 貸出冊数の目標達成ができた。 (2) 書庫はかなりせりりすることができた。 (3) 紀伊国屋書店との連携を取りながら定例会は行えた。 (4) 自習時間を中心に活用していただけた。 (5) コロナも落ち着きパーティーションを今後どうしていくかの課題が残る。</p>
<p>人権教育</p>	<p>(1) 人権教育を各クラスのホームルームのみに委ねることなく、教科指導・特別活動・部活動等、全ての教育活動全般との連携において推進する。 (2) 有効な各テーマにおける教材作成と参加型学習・視聴覚教材の活用により、人権問題の正しい理解と人権感覚の向上を目指した人権教育 LHR を企画する。 (3) 自己と他者との違いがあることが原点であり、その視点から、多様性を尊重し、他者を思い遣る心の涵養を図る。</p>	<p>(1) 各学年担任・教育相談係・保健室・生活指導部と連携する。 (2) 「人権教育基本方針」を作成し、推進機構(組織・会議・構成員)・基本方針・本年度重点目標・年間計画を明示する。 (3) 教職員研修に寄与するべく、大阪私立学校人権教育研究会の概要と課題別研究委員会の内容を周知通達し、また、人権教育基本精神啓発資料を作成する。 (4) 教職員研修および生徒の人権意識の状況報告と向上を目指した推進会議を企画する。 (5) 適切な教職員研修会を企画する。</p>	<p>(1) 生徒の平常の学校生活状況・言動・交友関係、家庭での状況を知る「生活・いじめアンケート」結果の観察 (2) 4月人権教育企画推進委員会で基本方針等原案の提案承認・全教職員への公示・意見集約を経て、7月人権教育推進会議で決定 (3) 「人権教育基本方針」に盛り込み、周知徹底 (4) 私学人研他、校外研修会参加者からの研修内容の報告・研修資料配布等 (5) 要求のある研修内容を提供する講師の招聘</p>	<p>(1) A (2) B (3) B (4) B (5) A</p>	<p>(1) 各学年、できるかぎりの「生活・いじめアンケート」結果をふまえた考察に踏み込んだ。 (2) 「人権教育基本方針」の新たな視点を提示したが、各学年・クラスへの浸透には取り組みの工夫は必要。 (3) 私学人権総会・部会・課題別研究会で受け入れた情報知識の提供・啓蒙活動の全教員へ伝える課題が残った。 (4) 人権教育推進会議において全教員への人権情報の供・啓蒙活動の課題が残った。 (5) 「起立性調節障害の原因からの不登校というテーマにおける実りある研修ができた」と考える。</p>
<p>保健管理</p>	<p>(1) 発育・発達に応じた、将来にわたる心身の健康と保持増進を図る保健教育の実践 (2) 保健室の機能、養護教諭の専門性を生かした心身のケアと健康相談活動の充実、コーディネーションを図る (3) 健康課題に対して、教職員・生徒・保護者・専門医等学校全体で生徒を守るチーム支援を目指す。</p>	<p>(1) ① 様々な機会を活用した保健教育により、生命を大切に、健康・安全意識を高める ② 基本的な生活習慣の確立、自立的な健康管理能力を養う ③ 感染症予防に向けた情報収集並びに予防啓発・情報の発信を迅速に行う (2) ① 一人一人に寄り添い、メンタルヘルスの課題を早期に発見・対応ができる支援体制の構築 ② 健康観察を充実、要配慮生徒の的確な情報共有と関係機関との連携・調整を図る (3) ① 学校全体の健康課題、ニーズの探求とヘルスリテラシーの習得及び情報発信の推進 ② 危機管理に備え、適切かつ迅速に対処できる体制を推進</p>	<p>(1) ① 健康診断の事後措置の徹底 性教育、がん教育の実施 ② 睡眠・栄養・運動等生活習慣の改善、視力低下、歯・口腔疾患の予防 ③ 欠席状況の確認、来室状況の共有、動向調査を行い、昨年度減を目指す (2) ① 一人一人への声かけ、悩みや困り感に共通理解を示した支援、教育相談やSCとの連携・調整 ② 既往症やアレルギー等の要配慮事項の適宜更新、学校行事に反映、情報共有 (3) ① 教職員・学校医・学校薬剤師・学校歯科医・SC・保護者・産業医・生徒保健委員会との連携協働 ② 普通救命講習会やアレルギー講習会等で教職員研修の実践</p>	<p>(1) A (2) A (3) B</p>	<p>(1) ① 健康診断未検査・精密検査者の受診を促し自己管理能力の向上ができた ② 性教育やがん教育のアンケート結果から各90%が好評で、正しい知識の理解と行動変容に繋がった ③ 欠席、学校感染症統計の推移をみて感染予防に努めた (2) ① 全来室者の44.5%が中学1年生で一番多く、ODや教室に入りづらい等、心身に起因する関連である。一人一人時間をかけ十分に話を聞くように心がけ、継続支援ができた ② 要配慮生徒の情報共有は特に宿泊行事にて反映した (3) ① 教職員、学校医、SCや保護者と相談を重ね、組織的連携協働でチーム支援ができた ② 教職員の救急意識が高まった。だが、シミュレーションした訓練を定期的に行う必要がある</p>

<p>教育相談</p>	<p>(1) 係員個々人のスキルアップ (2) 教職員の臨床的視点の醸成 (3) 「ホップの会」実施</p>	<p>(1) 研究会・研修会への参加 (2) ①研修会・担当者会議の実施 ②SC との連携 (3) 学期に 1 回の実施</p>	<p>(1) 参加後の振り返り (2) ①生徒理解とその支援 ②生徒理解とその支援 (3) 保護者同士の心理的交流</p>	<p>(1) C (2) B (3) B</p>	<p>(1) 3 回実施されたカウンセリング研究会の研修に参加し、自己研鑽を積み努力できた。 (2) ①支援会議等を適宜開き、共通理解を図ることができた。 ②カウンセラーにも係会議に参加してもらうことで、より生徒への理解が深まった。 (3) 同質性の高い保護者同士が集まることで、横、縦のつながりができ、保護者の精神的安定につながり、これが生徒への支援にも通じた。</p>
<p>特別支援</p>	<p>(1) 係員個々人のスキルアップ (2) 教職員の臨床的視点の醸成 (3) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成</p>	<p>(1) 研究会・研修会への参加 (2) ①研修会・担当者会議の実施 ②SC との連携 (3) 次年度への引継ぎ資料として使用する</p>	<p>(1) 参加後の振り返り (2) ①生徒理解とその支援 ②生徒理解とその支援 (3) 共有事項の周知徹底を図る</p>	<p>(1) C (2) B (3) B</p>	<p>(1) 3 回実施されたカウンセリング研究会の研修に参加し、自己研鑽を積み努力できた。 (2) ①支援会議等を適宜開き、共通理解を図ることができた。 ②カウンセラーにも係会議に参加してもらうことで、より生徒への理解が深まった。 (3) 担任に classi で情報提供の依頼を行い、円滑に進めている。</p>
<p>生徒会</p>	<p>(1) 教員間の情報の共有 (2) 学校行事における生徒会業務の内容の吟味と効率化 (3) 効率的な体育大会の実施方法 (4) 効率的な文化祭の実施方法</p>	<p>(1) 会議資料を充実させる (2) 内容を洗い出し、最善策を検討する。 (3) 体育科教員からの意見を求め、安全に実施できるように進める。 (4) 多くの教員からの意見や、生徒からの意見も参考に進める。</p>	<p>(1) 記録を作り報告する。 (2) 報告書の作成 (3) アンケート調査 (4) アンケート調査</p>	<p>(1) B (2) B (3) B (4) A</p>	<p>(1) 生徒会行事（体育大会や文化祭など）が行われる 4～5 か月前からは内容を精査し、教員間の情報の共有化を図った。 (2) 生徒会長を中心に、体育大会や文化祭の内容を吟味して実施した。また次年度に行いたい球技大会の内容も生徒会役員で吟味した。 (3) 体育大会については多数改善点があったため、来年度にはより良く運営したい (4) 安全上の配慮から模擬店の数を減らした。その事で中庭の混雑は減った。しかし、生徒会から各教室での催し物への諸注意が徹底できていなかった。担任への連絡事項など、もっと要項を精査したい。次年度以降、保護者を校内に入れることを想定した内容を考えていきたい。</p>